

医療法人 春秋会・社会福祉法人 五蘊会

四季

〈広報誌〉
S h i k i

ハートフルな
情報をお届け!!

vol.06

春号
2019.4



特集
PICK UP

《共に生きる》 「介護」と共に生きる

- | | | | |
|----|------------------------|----|--|
| 01 | 理事長だより ちょうしん記 | 11 | 〈地域のかがやき〉琴海花まつり! |
| 03 | 特集 介護分野における 外国人材について | 13 | Heartful×Multiple
診療スケジュール／イベントスケジュール |
| 05 | 〈子育て〉子どもの育ちとメディア | | |
| 07 | 〈新規事業〉オンライン診療について | 14 | Heartful×Gallery
読者投稿けいじ板～日々是好日～ |
| 09 | 〈介護の『あれこれ』〉配食サービス・訪問介護 | | |

うららかな春の日
暖かな風に自然のエネルギーを感じます。

理事長
より
だより

ちようしん記

2019
Heartful
Message



平

成一七年一二月、クリスマス。午後一時、晴。二本松合唱団三〇名（男性六人）が南クリデイクアセンターのフロアに勢揃いした。平均年齢八五歳。平均要介護度2・6〜2・7。これから「二本松合唱団クリスマスコンサート」が開演されるのだ。全員の緊張した表情は隠せない。それぞれ身なりを整え、髪型を直し、女性陣は口紅も鮮やかに化粧され、全員が爽やかに装われていた。車椅子の方数名を最前列にして隊列を整え、その回りを二本松荘スタッフが合唱団を包み込むように陣取った。合唱団全員はいつもよりも背筋がスキッと伸び、姿勢の良さを際立たせていた。そして、全員の襟元に結ばれた緑色のスカーフと赤いクリスマスキャップは、印象深くメンバーを若返らせ、その団結ぶりを誇示していた。このステー

ジには、団員の何時もとは違う非日常性と、それをサポートする介護スタッフの熱い思いがにじみ出ていた。

プログラムは全一〇曲。赤い花、白い花、野に咲く花のように、今日の日はさようなら、遠い世界に、宗谷岬、山の煙、君恋し、青い山脈、誰か故郷を想わさる、アンコール曲として旅の夜風。ナツメロからフォークまでの幅広いパートリリーの中には童謡はなく、合唱団のモチベーションの高さがうかがわれた。合唱団にとってフォークは初めての歌で、このコンサートに合わせて練習が積み重ねられていた。ピアノ伴奏は二本松の介護スタッフ。指揮は勿論小生。この時の指揮は一風変わっていた。指揮棒の変わりに二〇×三〇cmの厚紙パネルが数枚用意され、夫々に「待て」、「行け」、「強く」、「弱く」そして「間奏」の

『二本松合唱団』 のお話し

文字がクッキリと色分けされたパネルに浮かびあがり、それをかざして指揮表としていた。指揮というより合図と言った方がふさわしい。

こ

こは長崎市戸町のデイサービス『二本松荘』。そ

こに集う利用者の方々は、長い期間をかけ、毎週一回の歌唱練習を重ねていた。事の始めはその年の春4月、「ドクトル・ドーネの音楽講話」と言うタイトルでスタートした。私には一つのねらいがあった。背景に認知症患者の増加があり、社会問題ともなってきた。当時の二本松デイサービスはなじみの患者さんで占められていた。そこで認知症予防の一環として、回想法と音楽療法をつなげた私なりのやり方を試してみようと思い立った。資料は参加者に関する情報と歴史年



ドクトル・ドーネの音楽講話

表、そして年代別にまとめられた楽譜帳。選曲の上で年齢は重要な要素であった。その人の人生の中で、15歳から25歳頃の時代背景と当時の流行歌が選曲のポイントとなる。20名程度の参加者の年齢構成から選曲内容を決めて行なった。童謡は、幼児期に遡ることが目的ではなかったため最初から除外した。

音楽講話の内容は、回数を重ねる度にそのスタイルが確立されて行なった。まず姿勢を正し、呼吸を整えての発声練習、つまり声を前方に飛ばす練習がルーティ



クリスマスコンサート本番

ンだった。この時、以前（クラシックの）声楽の個人レッスンを受けていた事が役に立った。その月のテーマ曲を決め、毎週同じ曲を練習した。最初に取り上げたテーマ曲は「さとうきび畑」だったと記憶している。選曲の基準は、簡潔で覚えやすいメロディと美しい日本語。とは言っても、なじみの無い、新しい曲を歌うのはしんどい。ともすると散漫となりがちな関心を繋ぎ止める為に参加者の時代の歌を4、5曲並べた。この音楽講話で作られた歌詞集の内容はかなりの分量にのぼって

いる。初めての歌はくたびれる。歌いくたびれたタイミングで時代を代表する歌謡曲、ラジオ歌謡をとり上げた。その歌が歌われた時代背景、どうやってその歌を聴いていたのか、当時のなつかしい思い出、時には結婚のいきさつ、そして私の本職の病気のお話しへと導いていった。例えば、「蘇州夜曲」を歌う時は、先ず若かりし頃の自分の姿を思い浮かべ、その当時の乙女心を回想していただいた。そして、その当時の優しかった？自分を思い浮かべながら、その余韻で歌うようにお願いした。

音

音楽講話を開始して半年経った一〇月頃、私は参加者に一つのプランを提案した。

「皆さん、たまには他所に慰問に行ってみませんか、その為に私達を二本松合唱団と呼んでみませんか」、更に「いろんな方々が皆さんの為に慰問に来てくれますが、時には我々で慰問に行ってみませんか」とたたみかけた。力量的には可能であるという確信が有った。スタッフにとつては様々の困難を伴う大仕事であるし、気苦労も多く、準備も大変である事も分かっていた。しかし、この企画を持ちかけた時から皆やる気満々であった。

コンサートは二か月後のクリスマスに設定。慰問先は南クリ・デイケア（通所リハビリ）。準備期間は約六週間。さあ、二本松合唱団初めての慰問コンサートだ！事前の準備、慰問会場となるデイケアとの連絡、打ち合わせ、当日の段取り、スタッフ全員が次第に忙しさの渦の中に放り込まれていった。当日の内容だけでも大変な仕事量である。合唱団全員の健康チェックに始まり、身づくろい、衣装合わせ、往復の移動、会場設営その他諸々。

長い時間をかけた練習と準備が参加者全員の一体感をもたら

し、感動の源泉となる。予定されたプログラムが進むにつれ、緊張感が満足感へと昇華し、桜の花が一挙に満開となるが如く皆の顔が一斉にほころんだ。合唱団メンバーは満ち足りた表情で語りかけ、スタッフは無事に終わった達成感で微笑んだ。

約

一年間の「ドクトル・ドーナの音楽講話」を通じて、計二回の慰問コンサートを行った。私の音楽歴の中で、懐かしく、心温かく思い出される一年間であった。又、私の音楽性が最も鍛えられた一年間でもあった。それから一四年、全員ご健在ならば平均年齢一〇〇歳の筈であるが、存命なのは3人の方々のみ。しかし、少しでも自分の能力を伸ばしたい、残り少ない人生を楽しく過ごしたい、と願った二本松合唱団はこの巻頭言と共に生き続ける事になる。



医療法人 春秋会・
社会福祉法人 五蘊会
理事長 永田 剛

「介護」と共に生きる

介護分野における外国人人材について

最近テレビや新聞で何かと報

じられている「少子高齢化」「過疎化」「人口減少」「2025年問題」それに伴う問題として「介護人材不足」もよく耳にします。その介護人材不足を解決する一つの手立てである「介護分野における外国人材」について、長崎県長寿社会課介護人材確保推進班町田裕史課長補佐に、長崎における現状や、今後の展望をお聞きしました。

『今後介護人材はどれくらい不足しますか』

団塊の世代の方がすべて後期高齢者(75歳)になる平成37年には長崎県内で3300人の介護

職員の不足が見込まれています。

『現在長崎県内の介護現場には、どれくらいの外国人の方が働いていますか』

平成30年2～3月に調査したところ、県内の15の介護事業所で外国人材を受け入れた実績がありました。国籍でいうと、インドが一番多く11人、次いでフィリピン10人、中国6人、ネパール4人でした。

『日本の介護分野で働くためには、どんな条件がありますか』

留学生や技能実習生などそれ

ぞれ入国に必要な条件は異なりますが、最低限日常生活に支障のない程度の日本語能力が必要です。

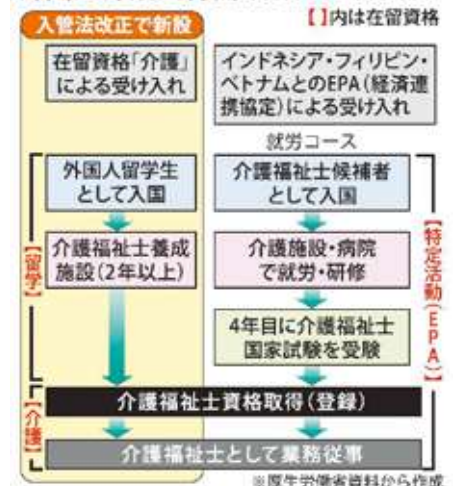
『外国人材を受け入れることに対して、長崎県では現在どのような取り組みをしていますか』

外国人受け入れ対策協議会を平成30年度設置し、外国人材を受け入れることにあたっての課題と、その課題を解決するためにはどのような対策が必要かを検討しています。また、30年度内に外国人受け入れセミナーを開催し、外国人材受け入れの制度説明をしたり、すでに外国人材を受け入

『実際に外国人材を受け入れた事業所での具体例はありますか』

外国人材を受け入れるにあたり、一番のネックはやはり日本人とコミュニケーションが取れるかだと思います。しかし、技能実習生を受け入れている事業所に聞いたところ、コミュニケーションについては思っていたほどの心配はなく、意思疎通は十分にできていると回答がありました。そもそも、日本の介護現場に來られる外国人は、その国でそれなりに優秀な方

外国人介護人材受け入れのイメージ



であり、さらに日本語能力試験をクリアしないといけないため、日常会話は問題ないと考えられます。

また、現時点では、外国人材とのトラブルに関する声は上がっていません。外国人材は年も若く、やる気があって性格も明るいので、逆に日本人のスタッフに良い影響を与えている。また、利用者である高齢者の方々は、外国人の



白石氏：居宅介護支援事業所緑風(左) 町田氏(右)

スタッフを呼ぶことが多いなど、現場では外国人スタッフを好意的に受け入れているようです。

『今後外国人材を受け入れるために、私たちが準備することはありますか』

準備にはハード面とソフト面があると思います。ハード面では、外国の方が住める環境を整えること。例えば事業所の近隣にある空き家を住居として提供できるようにするなど考えられます。ソフト面としては、外国人への壁をなくすことだと思います。外国人は異国の人という心の壁があり、その壁がなくなることによって外国人材をスムーズに受け入れることが可能になります。すでに外国人材を受け入れている施設の見学をしたり、そこで働いている外国人と実際に話したりすることで、外国人材に対するイメージも変わっていくと思います。



『最後に県民・市民の皆さんに一言お願いします』

外国から日本に来て働いている方は、不安に思っている人が多いと思います。そんな外国人の方に温かく積極的に声をかけていただければ、外国人の方は安心して末永く長崎で働いていただけたと思います。温かい目で見守っていただければと思います。

【対談を終えて】

介護人材の不足と、それに伴う外国人労働力の活用は、避けて通れないものであると改めて感じると共に、対談を通して、春秋会・五蘊会が、外国人材に対しどのような準備を行うかについて多くの示唆を得ることができました。法人として、まずは地域の日本人人材確保と人材育成を進めながら、今後外国人材をスムーズに受け入れられる環境を整備していくことが必要であると思います。いつの日か来る外国人スタッフに、「うちの職場はいいところでしょう」と胸を張って言えるような職場づくりをしていきたいです。

ご協力



長崎県長寿社会課
介護人材確保推進班
課長補佐
町田 裕央 様

子どもの育ちとメディア

インターネットの情報にあふれ SNS 時代と言われる現在、早い場合は0〜1歳児でもスマホやタブレットを使い遊ぶ子どもが増えています。このテレビ、ビデオを含むメディア接触の低年齢化、長時間化による子どもの発達への影響が心配されています。

長崎県では子どもとメディアの環境を啓発、家庭教育支援を図ることを目的に「メディア安全指導員」を養成。現在156名の指導員が在籍し県内各地域、幼稚園、保育園から高等学校、地域団体のへ派遣を行っています。平成二十九年度は派遣回数382回、延べ参加人数45,525人。

今回、メディアとの関わりが低年齢化していることを危惧してい

た本園において、とまちこども園5歳児、放課後児童クラブとまちクラブの子どもたちに、メディア安全指導員の方々を招き、ゲームとの付き合い方についてお話をしてもらいました。

『一緒に考えよう!』

『今日はどんなことでもいいので、見て思ったこと、感じたこと、どんなお話してくださいね。』

指導員の石瀬さん、田栗さんが子どもに話かけます。『今日は紙芝居ピコピコゲームのピコたろうのお話をしにやってきました。』この紙芝居は、ゲームとの付き合い方について考えてもらおうと長崎県青少年育成県民会議が年長児・

小学校低学年向きに企画、製作したものです。話しが始まる前に子どもたちの現状を聞くと積極的な発言が次々に。「ゲームはサントさんからもらった!」「俺持ったる携帯!」「一時間位しよる。」「ご飯食べ終わったらしたらだめ。」「土曜と日曜だけしたいと。」「パパとママはずっとしよる。」それぞれの家庭でルールがあるようですね。

『どこかで聞いた事のある昔々のお話です。』

昔話「ももたろう」をアレンジした紙芝居が始まりました。川上から流れてきたゲーム機から生まれた「ピコたろう」。元気に育って



紙芝居 ゲームから生まれたピコたろう

いたある日、おじいさんからゲーム機をプレゼントされて……。ピコたろうの生活リズムが乱れていく様子や赤鬼が人間界のゲーム機を壊してまわる理由を通してゲーム機との付き合い方を考えていきます。約15分のお話に子どもたちは姿勢も崩さず集中して見ていました。終わりには赤鬼の約束を伝えます。

『どうしてゲームの約束が必要か、大切なのか考えよう』

「ゲームの時間を決める！」紙芝居を見終わった後には年長児自ら発表する姿もありました。赤鬼の約束が心に染み込んだ瞬間に更に深く心に刻んで欲しい思いを伝え、子どもの発言を受け止めていきます。なぜ、約束が必要かということですよ。

『大人と子どもと比べると、子どもが断然すごいことがあるよ。』



真剣なまなざしで聞く子どもたち

それは何かな？』少し難しくなった質問に「走ること？」「よく寝らんば？」「そだつ」

育つということ

『そう！正解』『そだつ』と発言したのは小学校2年生のY君。『育つって何？』『育つ為には何が必要？』『身体が強くなるためには？』の質問に対して「早寝早起き」「外で運動、遊ぶこと。」「寝ること」と子どもたちが次々と発言していきました。最後に「あかおにの約束」として睡眠や成長を妨げるゲーム・テレビ・スマホの使い方について子どもたちと一緒に考えていきました。

『ゲームばかりで遊んでも身体は強くなりません。』
日本小児科医学会では「スマホに子守りをさせないで」と警鐘を鳴らし「親も子どももメディア機器の接触時間のコントロールする大



赤鬼からのゲームの約束

切さ、親子の会話や体験を共にする時間が奪われている」と問題提起しています。眠りは「脳を作り、育て、働きを守る」といわれています。乳幼児期の良質な睡眠は不可欠であり、脳機能の低下につながるのとこの睡眠欠乏蓄積、不登校や引きこもり、成人代謝病基礎となるといわれています。(三池輝久・兵庫県立リハビリテーション病院)乳幼児期の最重要な課題は五感を十分に活用しながら周囲を探索し養育者と相互作用を通じて愛着を築き、応答性のある環境の中で自己や他者、世界



メディア安全指導員 石瀬氏(左) 田栗氏(右)

に対する信頼感を獲得して行くことです。ミルクをあげる時も視線をあわせず声掛けもなくスマホにくぎ付けの母親や、ベビーカーでもスマホをもたされ光や音に反応している乳児は目や脳への発達が阻害されないか心配されます。

大人も子どもも依存する要因にもなりかねないメディアとの付き合い方について、もう一度それぞれの家庭で約束の確認ができたと思います。子どもには断然かないませんが、大人も育ちます。子どもと一緒に大人も育ちましょう。

オンライン診療について

南長崎クリニック 副院長

永田 済いっき

最近皆様の周りで「オンライン診療」という言葉を聞いたことがありますでしょうか。もともとは「遠隔診療」という名前ではき地や離島などへの医療支援としての使用が想定され1997年に厚生労働省より通知がなされ医師法との関連性について解釈が行われたのが始まりです。遠隔診療が診療として認められ得ると解

釈されるようになったのちも限られた条件下でしか遠隔診療を行うことが出来ないという状況が長く続いていました。そこで転機が訪れます。2015年8月に厚生労働省より、遠隔診療の留意事項として挙げられている地理的条件や疾病についてはあくまで例示であり患者側の要望に基づき適切な対面診療と組み合わせることで遠隔診療を行うことは差し支えない、との見解が示されました。これにより状況が大きく変化し遠隔診療を導入する医療機関や遠隔診療サービスに参入する企業が現れました。以降も様々な解釈がなされ、2018年4月よりついに健康保険が適応されることになりました。時代の

変遷と需要の変化によって解釈が整理されお手持ちのスマホ・タブレット・パソコンのビデオ通話機能を用いてリアルタイムに診療を行う「オンライン診療」として生まれ変わることになったのです。

現在ではすべての疾患において適応となっているわけではありませんが、どのような方がこの「オンライン診療」をうけることができるのか、それを下記に示したいと思います。

年齢に制限はありません。高齢者で端末の操作ができなくても、家族の協力があれば実現可能です。仕事が忙しくてなかなか受診に来ることが出来ない人なども含めて、子育て、介護、交通事情

オンライン診療対象者

1. 直近6カ月で当院に毎月受診している、もしくは直近12カ月で6回以上定期的に受診している人。
2. 高血圧、糖尿病、高脂血症等オンライン診療ガイドラインに記されている疾患に対して治療中の人。
3. 医師がまず対面診療し「次回はオンライン診療で」と判断した場合。
4. スマホ、タブレット、PCを持っている人。

を理由に通院をあきらめることなく治療を継続していくことが可能となります。治療を中断することなく継続していくことが出来るという方法が増えた点がこのオンライン診療の根幹ともいえるのです。

具体的な特徴と診療イメージについて、下記に示しています。

以上、ざっくりですが概要をお話しさせていただきました。当院でも2019年4月よりオンライン診療システムを開始しています。オンライン診療に興味がある方は是非御相談ください。



オンライン診療の特徴

1. 24時間いつでも予約可能…24時間365日好きな時間にインターネットを通じて診察予約が可能です。
2. 通院にかかる移動時間、交通費ゼロ…通院がいらないため通院にかかっていた時間や費用がかからなくなります。
3. 好きな場所で受けることができる…スマホ、タブレットがあれば場所を問わずどこからでも受診が可能です。
4. 会計の手間がない…会計はクレジット決済と窓口支払いが可能です。
5. 処方箋は郵送…処方箋は御自宅に郵送します。お近くの薬局でお薬をもらってください。

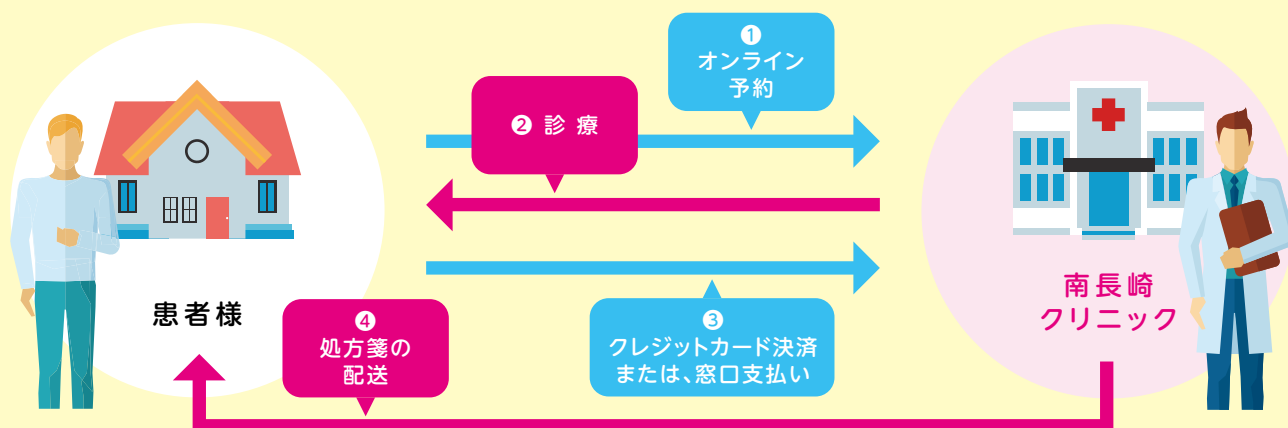
費用・支払方法(例:3割負担)

保険診療	項 目	対面診療	オンライン診療
	再診料	78点	70点
	外来管理加算	52点	—
	特定疾患療養管理料	225点	—
	処方せん料	68点	68点
	特定疾患処方管理加算	66点	—
	負担額	※1,470円	※410円
システム利用料		—	1,500円

※負担割合に応じてお支払いが変わります。
詳しくは受付窓口までお問い合わせください。

オンライン診療イメージ

「予約」・「診療」・「決済」・「配送」の遠隔治療に必要な全てをアプリで実現。





- お名前 ……Aさん 女性 80代後半
- 生活環境……アパートに一人暮らし、子ども無し
姪夫婦が定期的に訪問
月1回民生委員の訪問
- 状況 ……10年前に原爆検診を受けたのみで
主治医無し
極度の病院嫌い

配食サービス・訪問介護

介護の『あれこれ』

特別養護老人ホーム琴の浦荘では平成27年度から地域の高齢者に向けて安否確認を含めた配食サービスを実施しています。

琴の浦荘の配食サービスは管理栄養士が栄養バランスを考え、献立を立て、調理職員が一つひとつ手作りのあたたかいお弁当を提供しています。また、心臓病や糖尿病などの治療食にも対応しています。

配達は日曜や祝日、お盆や正月も関係なく毎日16時から配達しています。琴海地区全域を配達地域とし、配達員は利用者様にお変わりがないかコミュニケーションを取りながら状態確認を行います。訪問しても返答がなく利用者様が不在の時は自宅周辺の確認や緊急連絡先、担当ケアマネジャーへの連絡、場合によっては救

急にも連絡を取る等、安否確認の役割を行っています。

琴の浦荘の配食サービスを利用しているA様の事例を紹介します。

現在までの生活

80歳の頃、階段から転落。その頃より足腰が弱くなり自宅から出ることなく引きこもり状態となる。病院受診を極度に嫌がり、かかりつけ医もなく介護認定も受けていない。民生委員としてはA様の今後のことを考え琴海地域包括支援センター（以下包括）に相談。包括と一緒に訪問し提案をするも全て拒否され状況は変わらぬままでした。

配食サービスの提案

あるとき、民生委員が定期訪問すると、部屋中が煙で充満している状況でした。煮物を自分で温め直そうとしていたことを忘れていたようで、鍋を焦がしてしまつたとのことでした。翌日、A様、姪夫婦、民生委員、包括で話し合いがもたれ、配食サービスの提案がされました。

病院受診もしておらず、介護認定も受けていない状況で長崎市の配食サービスを受けることは難しく、民間の配食サービスを探すことになり、琴の浦荘に依頼がありました。

配食サービスを始めるにあたり、A様が納得してサービスを受けてもらえるよう包括と一緒に

訪問し説明しました。初日は警戒している様子もありましたが、お弁当を渡すと表情が和らいだように感じました。2日目、玄関の鍵がかかっておりノックを2、3回して扉を開けてくださいました。それから毎日決まった時間の夕方5時にお弁当の配達をしました。

毎日顔を合わせることでスタッフとの関わりにも慣れ、2ヶ月が過ぎた時、今まで着の身着のままの姿だったA様が、洋服をきて首にはネックレス、化粧をした姿で待っており、手を合わせ「ありがとう、ありがとう」と拝まれました。姪様と会った時に「最近とても元気で表情も良く、玄関をノックするとすぐに出てきて鍵も開いている。お弁当を頼むようになってから変わったようだ。」とおっしゃっていました。姪夫婦が来る日以外は、A様が夕方まで何もせずただ眠ってい



配食サービスの様子

懸念だった病院受診と介護保険の申請まで何とかすることできましたが、A様の住環境やこれからのことを考えると課題が山積しており、地域ケア個別会議が開かれ定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを導入することが決まりました。

定期巡回サービスが毎日訪問を続けて3ヶ月経つと、スタッフに少しずつ頼るようになってこ

られ、スタッフが淹れたお茶を飲んでいただけたり、体を拭かせていただくこともでき、確実な水分補給や身体の清潔を保てるようになりました。特に体を拭かせていただいた後はその都度A様より「気持ちのよかね。ありがとう」と笑顔が見られるようになってきました。定期巡回サービスを始めて半年が過ぎる頃には、自分で体を拭かれ



実際のお弁当

されたりと生活の意欲も徐々に上がっていきました。

今回A様のケースで「配食サービス」には安否確認や栄養の確保以外にも、生活状況の把握や必要なサービスを導入するための切り口になるということも発見することができました。

琴海花まつり！

全国各地で地域力強化や町おこし等の言葉が飛び交う中、琴海地区の春の行事として、毎年大盛況をみせる琴海花まつり。催しが始まった経緯や今後の課題等について、琴海花まつり実行委員会会長の坂口さんにお話を伺いました。

琴海花まつりについて 教えてください

毎年桜の開花予測に合わせて、3月下旬から4月上旬に開催している、琴海戸根地区のお花見イベントです。今年で第8回目を迎え、琴海花まつり実行委員会が企画しています。長崎市都市景観賞にも輝いた琴海戸根川沿いの県下最長1.5kmの桜並木を中心に、琴

海産農産物等の販売や数量限定大人気の猪鍋配布無料配布を始め、シーカヤックや陶芸絵付け、イチゴ狩り、スタンプラリー等の体験メニューも行っています。夕方からは手作りの竹灯籠やぼんぼりによる夜桜ライトアップ等、子どもから大人まで1日中楽しめる内容となっています。又、ほたるの郷としても知られる戸根川の透き通る川面には色とりどりの鯉が優雅に泳いでおり、地元住民だけでなく多くの見物客の目を楽しませてくれます。

とても魅力的なイベントですね！
この「琴海花まつり」が始まった
経緯を教えてくださいませんか

開催の経緯は長崎大水害のあった1982年まで遡ります。

長崎県下有数のほたるの名所だった琴海戸根川も水害により大きな被害を受け、沢山の生き物が姿を消しました。甚大な被害を受けた住民らは、互いに励まし合いながら一生懸命災害復興に尽力し、少しずつ元の生活を取り戻し始めました。しかし住民らの初夏の癒しとして共存してきたほたるは姿を見せません。「もうだめだ。ほたるは戻らん。」とあきらめていた8年目、戸根川上流の谷にほたるかな光を発見しました。このほたるや川を大切に守っていき、琴海町を盛り上げていこうと1990年に地域住民らによりほたるの会が立ち上がり、ほたるの夕べのイベントが始まりました。1997年には、刺激を受けた戸根地区のソフトボール協会

有志が、町おこしをしようと戸根さくら組を立ち上げ、住民有志らと共に戸根川沿いに桜や彼岸花の植樹を始めました。その後、当時の琴海町役場の協力もあり、年々桜の数が増え、2005年に現在の桜並木が完成しました。そして、当時の琴海行政センターのセンター長が住民との会合の席で「町づくりの為に祭りをやってみようや！」と声を上げ、県外様々な場所へ視察に行き、2012年に琴海地区様々な団体の共催の



春爛漫、お花見日和

下、第1回琴海花まつりが開催されました。

実行委員会メンバーについて教えてください

長崎市琴海地域センター、戸根さくら組、戸根ほたるの会、戸根



五蘊会職員も毎年参加しています



陶芸絵付け体験

原婦人会、琴海カヌー協会、茶道協会、社協等から15人前後が参加して、年5回の会議を開催しています。

イベントの反響はいかがでしょう

イベントには毎年地域住民や長崎市内外から沢山の方が足を運んでくれています。春爛漫の桜並木や地元の馴染みの店員さん、懐かしい再会を喜ぶ住民らや琴の浦荘をはじめとする介護施設の利用者さん達の笑顔等、本当に素敵な空間になっています。長崎の歩こう会というグループの方は瞬く間になくなる限定300食の猪鍋を目的に、わざわざ琴海花まつりの開催に合わせて歩きに来てくれました。開催にあたって大変なこともあるが、参加者の楽しそうな笑顔をみると、祭りが終わると同時に「さあ！来年の花まつりはどうしようか！」と実行委員会での反省会や来年の企画活動がスタートします。できる限りは

続けていきたいと思っています。

沢山の人に親しまれている「琴海花まつり」ですが、今後の課題や希望等がありますか

課題として、開催費用の問題があります。開催の内容や方法を検討して、なんとか祭りを続けられるよう、みんなで思案しているところです。又、実行委員会メンバーも少しずつ年を重ねてきています。後継ぎ育成にも力をいれたいのですが、若い人達は仕事もあるし、無理には言えないところがあります。長崎市の端っこである、琴海をもっと盛り上げて、沢山の人に琴海に来てもらえるように力を合わせて頑張っていきたいです。

最後に一言おねがいします

琴海花まつりに限らず、今後琴海地区は熱い想いを持った住民の期待に応えられるよう、これまでに以上に地域一丸となって地域力強

化や町おこしに取り組んでいきたいと思っています。これまでも五蘊会の職員さん達は様々なイベントに利用者の方と参加してくれたり、ボランティアとして参加してくれているので、今後もぜひ琴海地域を一緒に盛り上げていただけたら嬉しいです。

お忙しい中、快くインタビューを受けてくださり、本当に有難うございました。

私たち春秋会、五蘊会もこれまで以上に地域の方に身近に感じていただける法人となれるよう、頑張っていきます。

ご協力



琴海花まつり実行委員会2代目会長
長崎市蜷の会会長
五蘊会 評議員
坂口 弘康 様



Heartful×Multiple

〈マルチプル〉



南長崎クリニック 外来スケジュール (平成31年4月1日~)

[診療科名]

一般内科 消化器内科 循環器内科 神経内科 認知症予防外来 放射線科 リハビリテーション科
生活習慣病予防健診 一般成人病検診(原爆検診・特定健診) がん検診 人間ドック 禁煙外来
オンライン診療 訪問診療

[診療スケジュール]

		月	火	水	木	金	土
午 前 9:00~12:00	第1診察室	永田済医	佐藤医 神経内科	永田済医	永田済医	永田済医	永田済医
	第2診察室	難波医	難波医	難波医	難波医	夫津木医	難波医
	第4診察室	(永田剛医)	—	永田剛医	—	永田剛医	—
午 後 15:00~18:00	第1診察室	永田済医	—	永田済医	永田済医	—	休診
	第2診察室	夫津木医	難波医	—	夫津木医	難波医	
	訪問診療	難波医	—	難波医	—	—	
内視鏡室(胃カメラ・大腸カメラ)		難波医	長崎大学医師	難波医	長崎大学医師 永田剛医(大腸)	難波医	第1.3.5 永田剛医(胃)

※神経内科、オンライン診療、訪問診療をご希望の方はご相談下さい。

※各種健診・人間ドックは随時受付しております。

《お問い合わせ》医療法人社団春秋会南長崎クリニック 長崎市松が枝町3番20号 電話番号 095(827)3606

イベントスケジュール

イベント	泥んこバレーボール大会
日時	6月中
ひと言 コメント	長崎市長浦町で「泥んこバレーボール大会」が行われます。青壮年部が主体となり、地域活性化の為毎年行われる行事で、地域の様々な団体が参加します。水田にて出場者は泥だらけになりながらも白熱したプレーを連発しました。優勝すると、長浦スイカやハウス桃の贈呈もあります。



Heartful×Gallery

〈 読者投稿けいじ板〜日々是好日〜 〉



あじさい (通所介護事業所 琴の浦荘)



苔玉 (二本松荘デイサービス)



折り紙アート (二本松療養所)

せせらぎの 春の小川に 狸柳

風の妖精

紫陽花の 雫に垂れる 梅雨なかば

風の妖精

太平を 模した元号 皆が待つ

宜花

門前で 母子の背を揮す 春の風

やまのふもと

草餅の 緑色重なる 遠き日々

やまのふもと

表紙のお話し



今回の写真は、春爛漫の琴海戸根地区の桜です。長崎市内に、こんなに綺麗な桜の名所があるとは思いませんでした。春は自然から活力をいただくありがたい季節です。皆様も色々な所へ出掛けて、新しい景色をお楽しみ下さい。

〜編集後記〜

今年のテーマ「共に生きる」の2回目は今話題の外国人材について介護分野から考えてみました。今現在も国で町で検討中の課題ですが、きっと近い将来に皆様も出会うことになると思います。自分ならどうしよう、とふと考える機会になれば幸いです。

次回も皆様の身近な問題を紹介していきたいと思っています。よろしくお願いします。

春秋会編集長 福田 真司

「創業理念」

当法人は、医療及び介護事業を主体とし、それに関連する分野において
常により人間的に、より科学的に対応することに徹し、社会に信頼され、絶えず成長し続ける
法人を目指します。その実現のために以下の理念を掲げます。

より人間的に、より科学的に

【第一条】
本物のやさしさを

全ての人の生命、人間性、自主性そして個性を尊重し、
安心しておくれる継続療養の実現を目指します。

【第二条】

仕事の質にこだわりを

他者の批判に耐えられ、客観的で妥当性のある
仕事を目指し自らの職務の質的向上に努めます。

【第三条】

法律・道徳を守り、

自らが理解されるように

職務倫理（プライバシーの保護と守秘義務、
強要の禁止、その他）を遵守し、
職務内容の説明に努め、理解・同意を求めます。

【第四条】

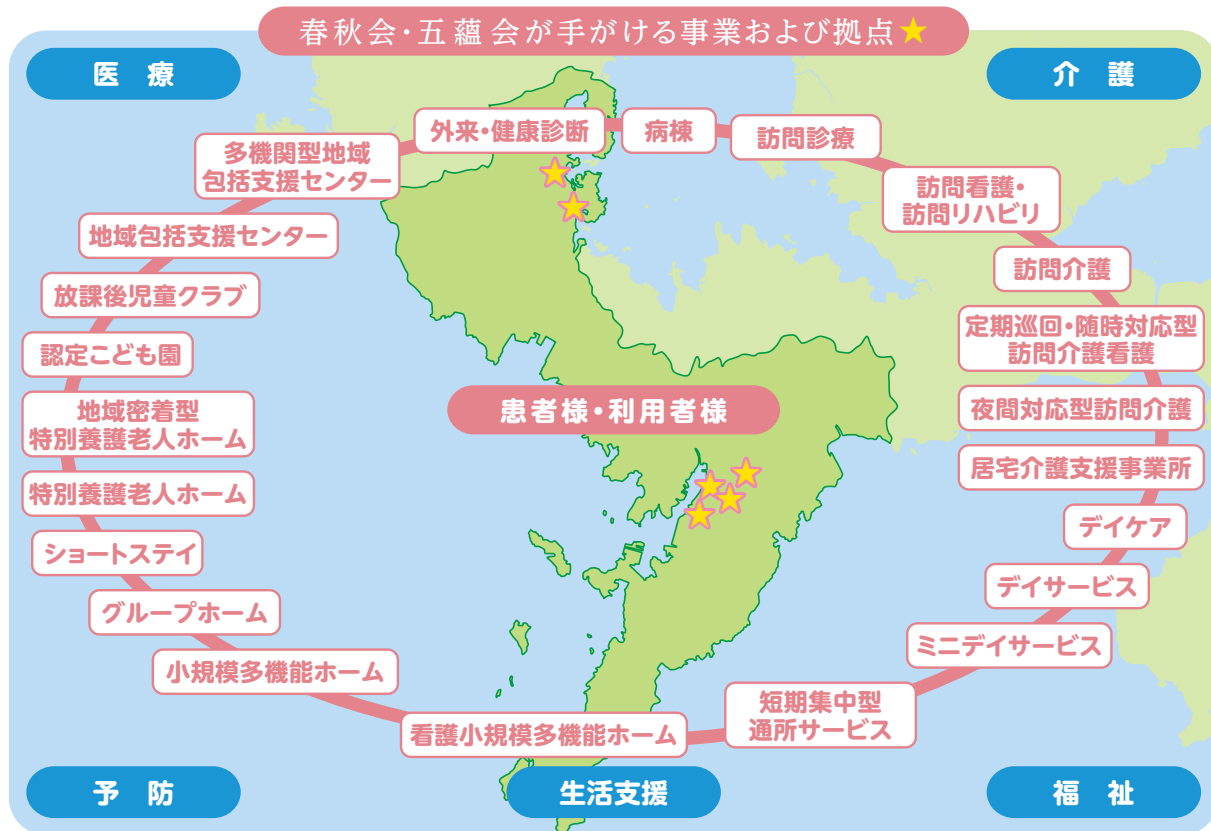
自分の成長のため

自らの職務の社会的意義及び医療・福祉分野での
位置づけを自覚し、職務の中での自己実現を目指します。

【第五条】

本当のチームワークを

各自、我がままを捨て、仲間への思いやりを持ち、
良好な職場環境の形成に努めます。



医療法人 春秋会

本部：南長崎クリニック
〒850-0921 長崎市松が枝町3番20号
TEL.095-827-3606
<http://www.syunju-kai.or.jp/>



ごうんかい
社会福祉法人 五蘊会

本部：特別養護老人ホーム 琴の浦荘
〒851-3103 長崎市琴海戸根町743番地47
TEL.095-884-3510
<http://www.gounkai.or.jp/>

